

日本の衣服とその変化

日本の伝統的な衣服と聞き、思い浮かべるものはどのような衣服でしょうか。恐らく、多くの方が「和服」を思い浮かべるかと思います。では、その和服の元となった衣服は何か、和服以前の衣服にはどのようなものがあったのか、御存知でしょうか。このページで、詳しく紹介したいと思います。

和服が現在の形になったのは、江戸時代の頃だといわれています。それ以前は、和服の原型となる、「小袖^{こそで}」という衣服を着ていました。この小袖は、平安時代から江戸時代初期までという、約800年もの間、庶民が着ていた衣服です。着方も見た目も、和服とよく似た形をしています。和服よりも横幅が広いつくりでした（『一遍上人絵伝』、洛中洛外図屏風など）。この小袖から、「曲尺^{かねじゃく}」から「鯨尺^{くじらじゃく}」という長さで寸法を測るようになり、形も横幅が狭くなることで、今の和服の形になりました。この小袖は応仁の乱（1467～1477）以降、貴族以外の人々の間で、性別や身分に関係なく着用されるようになりました。

では、室町～安土桃山時代以前、人々はどのような衣服を着ていたのでしょうか。

遡れば、縄文時代、弥生時代など、時代ごとに様々な衣服がありますが、特に有名なのは、平安時代の衣服なのではないかと思います。当時の貴族が着用した「十二単^{じゅうにひとえ}」（「女房装束^{にようぼうしょうぞく}」とも呼ばれる）や「束帯^{そくたい}」（男性の正装。正装をしない場合は「直衣^{のうし}」を着る）は、今でも雛人形などで、目にすることが多い衣服です。これらの衣服は、遣唐使^{けんとうし}が廃止されたことで大陸の影響が薄れ、日本独自の文化が育まれていく過程で生まれました。

このように、「日本の衣服」をテーマに取り上げてみると、時代の流れによって変化していたこ

とがよく分かります。例えば、先程取り上げた平安～室町時代や、江戸時代までは、日本独自の文化が作られていく過程で衣服が生まれ、変化していきました。しかし、飛鳥～奈良時代のように、大陸の文化を盛んに取り入れていた時代や、戦国～安土桃山時代のようにポルトガルやスペインとの貿易をしていた時期は、大陸風の衣服や南蛮風の衣服が受け入れられることで、衣服に変化が起きていきました。

今のように、流行で衣服の形が変わるのではなく、当時の日本の動きと共に、衣服も変わっていったのだといえます。

歴史と民俗の博物館では、ゆめ・体験ひろば内にある自由自在座にて、時期ごとに各時代の衣装を展示しています。展示されている衣服は、職員にお声掛けいただければ無料で着装体験が可能です。ぜひ衣服を通じて、日本の歴史や衣服の変化に思いをはせてみてください。



飛鳥時代の衣裳

女性の小袖

上記はいずれも着装体験用

(学習支援担当 石田智美)

THE A MUSEUM



歴史と民俗の博物館イベント情報（1月～3月）



埼玉県のマスコット
コバトン

■特別展「明治天皇と氷川神社一行幸の軌跡」は、1月2日（火）～2月12日（月・振替休日）の開催です。

1月

- 2日（火） 特別展「明治天皇と氷川神社」オープン（～2/12）
特別展展示解説
博物館でお正月、裏方探検隊
- 3日（水） 博物館でお正月、裏方探検隊
- 6日（土） 裏方探検隊
- 8日（月・祝） 特別展展示解説
- 13日（土） 第7回学芸員合同研究発表会
「ミュージアムフォーラムー水ー」
十二単・小袿の着装体験、裏方探検隊
- 20日（土） 特別展講演会Ⅰ、ミニ銅鏡作り、裏方探検隊
- 21日（日） 特別展展示解説
- 23日（火） 埼玉の人物「七名社の人々」オープン
- 27日（土） 歴史民俗講座「氷川神社行幸」裏方探検隊
- 30日（火） 美術展示「陶磁器」オープン

正月2日から
開館します

- 12日（月・祝） 特別展展示解説
- 16日（金） 江戸組紐帯締め作り
- 17日（土） 甲冑の着装体験、裏方探検隊
- 23日（金） 江戸組紐帯締め作り
- 24日（土） 歴史民俗講座「“海なし県”埼玉における水と人々の暮らし」裏方探検隊

3月

- 3日（土） 十二単・小袿と男子装束の着装体験
裏方探検隊
- 4日（日） 型付け藍染め
- 10日（土） 火おこし体験教室、裏方探検隊
- 17日（土） 企画展「田んぼ」オープン（～5/6）、裏方探検隊
博物館春まつりポン菓子作り
- 20日（火） 美術展示「国宝慈光寺経」オープン
- 24日（土） 民俗工芸実演「わら細工」裏方探検隊
- 26日（月） 臨時開館
- 31日（土） 裏方探検隊

裏方探検隊は原則毎週土曜日に実施します。

※1月8日（月）、2月12日（月）は開館します。

企画展

田んぼ

埼玉、人と水の風景

2017.3.17（土）>>> 5,6（日）

国指定重要有形民俗文化財「北武蔵の農具」より クワ（左）、タネオケ（右）（当館所蔵）

～博物館でお正月～

新年の1月2日（火）と1月3日（水）の両日は臨時開館いたします。

～リニューアルに伴う一時休室～

場所：常設展示室 第10室（民俗展示室）
期間：1月15日（月）～2月9日（金）

イベントは事情により変更になる場合があります。
また、事前に申込みが必要なものもありますので、詳細はお問い合わせください。



交通機関
東武アーバンパークライン（野田線）
大宮公園駅下車徒歩5分

埼玉県立 歴史と民俗の博物館

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore（編集発行）

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地

TEL. 048-641-0890（管理）

048-645-8171（学芸）

FAX. 048-640-1964

<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>



埼玉県立歴史と民俗の博物館だより
Vol. 12-3（通巻）第36号
2017年12月1日発行